

平成25年8月

第8回マナーキッズ大使保護者感想文

「わたくしたちがいただいたもの」

私は今、親として感謝の気持ちでいっぱいです。はじめはただ、大会でよい結果が残せたらいいなと安易な気持ちで参加させていただいたショートテニス大会でしたが、「マナーキッズ大使」に選んでいただき、大会を支えてくださっている多くの方々の並々ならぬお力添えを知ることになりました。

そしてそのお力添えの信念は、目先の成果に捉われず、じっくりと長い目を持って、子供を社会で育てていこうとなさる温かい心にあるのだと感じました。

アメリカ出発の前にも、事前研修をしていただきました。知識だけでなく、マナーや精神のあり方など、本来は親が子供に教えておかななくてはならない生きる基本を教えていただきました。親の私も何ひとつ身につけておらず、とても恥ずかしく思いました。

キャンプから帰ってきた息子が、毎日アメリカでの経験を話してくれます。カタコト英語ですが、話したり、歌ったりしています。現地で友情を深めた仲間のこと、一緒に行った大使の仲間との出来事を話してくれます。日に焼けた顔で目を輝かせながらよく笑う息子を見て、こんなに笑う子だったのかな？と思いました。アメリカでの経験が与えたものは親の想像以上のものだったのだと思います。

親も子もともに感謝の気持ちでいっぱいとお話しましたが、感謝の気持ちとは「ありがとう」と伝えることで表すのではなく、していただいたことに対して、これからを大切にすることだと思っています。

多くの方々からのご支援を受けて経験させていただいたことによって芽生えた小さな芽を、大切に育てていこうと思っています。少しでも社会にお返しができる人になれるように、親子ともに成長していきたいです。